

個別事業(取組)評価

事業No,	14	施策の柱への位置付け	柱② 教員指導力改革	
事業名称	教員指導力改革実践事業 (中学校英語授業改善プロジェクト事業)		担当課	教育政策課
			当初予算額(千円)	1,689
			補正後予算額(千円)	1,343
			決算額(千円)	972

		当初計画	年度末点検・評価
①	現状(課題)とその要因	【現状】 ◆ 平成21年度の中学2年生の学力定着状況調査によると、全国平均(全国正答率を1とする)と比べ、表現の能力が0.2ポイント、知識・理解が0.13ポイントと全国を下回っている。 ◆ 過去の悉皆研修により、授業改善の手法は各教員が持っているが、現状分析や検証方法の理解が不足している。 ◆ 指導主事のサポートの中身や地域の研究の風土も十分でない。	ア 正確に把握していたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) 全国調査結果やこれまでの研修実態を踏まえており、現状は、概ね正確に捉えることができていると考えられる。
		【要因】 ◆ 教員の課題として、中学校3年間を見通して到達目標を設定するといった系統性を持った計画、実践が行われていない。 ◆ 全国の情報が入らず、良い授業のモデルや研究授業に慣れていないことが旧態依然とした授業につながっている。 ◆ 指導主事の力量形成の場が不足している。	イ 十分に特定していたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) 受講者の研修姿勢から、生徒の思考を活性するための考え方や手段を得ようとする強い意思がみられることなどから、要因の特定は十分にできたと考えられる。
②	目標(Outcome)	◆ 3年間で中学生の英語学力を向上させる。 ◆ 表現の能力、書く力を全国平均に近づける。 ◆ 英語教員の授業力向上を目指す。 ◆ アクション・リサーチを用いて、生徒及び教員の情意面の変容だけでなく、学力の変容を図る。	ウ 達成可能で具体的な目標を設定していたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) 目標は3年間で達成する設定で、本年度は達成の手立てとして共通テストの作成を行い、年度末に実施することができた。次年度は、生徒の英語学力について、共通テストをもとに目標数値の設定が可能となる。 エ 目標は達成されたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) ◆ 共通テストの結果、生徒の表現の力や書く力に必要とされる「語彙」については、全学年で6割の生徒が「到達を目指したいレベル」を超えた。(共通テストは「語彙」「文法」「表現」「理解」を診断するテストとして作成したもの) ◆ 受講者の「教育的人間力」「英語運用能力」「英語授業力」の3つの力について、英語授業自己評価票を5月と3月に実施した結果、全項目とも受講者平均が0.3ポイント上昇した。 ◆ 担当指導主事による受講者の状況把握調査(9月、3月実施)から、授業の分析や次への手立てができ、自律への変容が多く見られた。 ①授業改善に自立的に取り組み、意欲的な者は10.5%増加 ②少しの支援を必要とする者は1.7%減少 ③最も支援を必要とする者は8.7%減少
		【検証(比較)方法】 ◆ ミドルリーダーを活用し、共通テストを作成し、そのテスト結果の分析により学力を検証する。 ◆ 毎年実施の到達度把握によって、全国との学力を比較する。 ◆ アクション・リサーチの結果から、教員の授業力向上を見取る。 ◆ 個人のアクション・リサーチから、学力の変容を検証する。 ※アクション・リサーチ 自己課題に対してグループなどの協力を得ながら仮説研究を行い、実践を繰り返しながら改善を図る手法	
③	実施内容(Input・Output)	◆ 教材解釈や各自の授業のビデオ分析などを行う集合研修と地域研修 ◆ 所属校で年間を通じてアクション・リサーチの実施 ◆ 地域内グループでの共同研究 ◆ ミドルリーダーによる共通テスト開発 ◆ 教員の英語運用能力向上のためCASEC受験 ◆ OJTによる指導主事の力量向上 ・ 受講者のメンタリングの情報交換 ・ 大学との連携による指導助言	オ 計画通り実施されたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) ◆ 受講者33人に対して、集合研修5回、地域研修3回実施した。 ◆ 受講者全員がアクション・リサーチを実施し、その成果を報告した。 ◆ アクション・リサーチを支える共同研究を年間を通して実施した。 ◆ 集合研修を3回実施し、「語彙」「文法」「表現」「理解」を診断するテストを3学年分作成して、各受講者の学校で実施した。今後、受講者以外の学校でも実施可能にする計画を進めている。また、小中学校課実施のパイロット校でも検証用として活用する。 以上の4点については、高知工科大学と連携事業として行った。 ◆ CASECを全員が受験した。
		目標達成度 B 「No」を選択した項目 <input type="checkbox"/>	【今後の方向】 生徒の学力向上を目指し、次年度も継続して研修を実施するとともに、更に研修内容の充実を図る。生徒の学力の状況把握については、共通テストを用いて分析を行う。
総合評価と今後の方向		【総合評価】 予定をしていた事業自体の成果は、十分にあったと考えられる。	